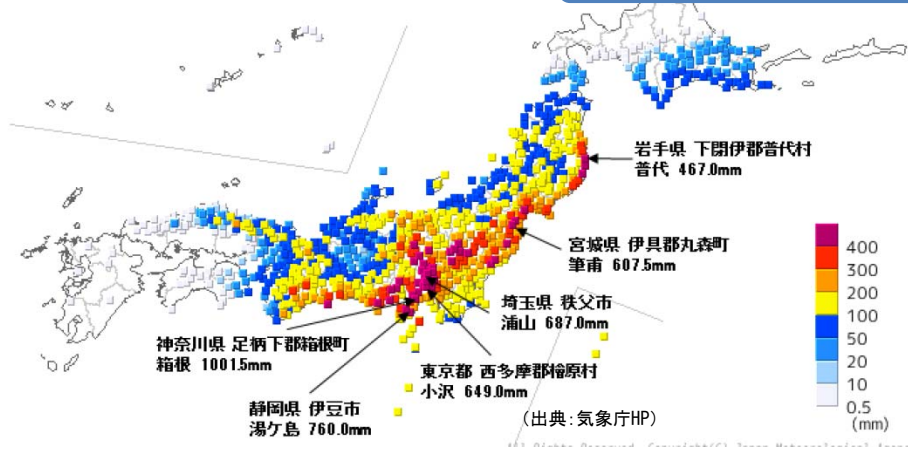


静岡県気候変動適応センターの取組

降水量の期間合計値
期間：2019年10月10日～2019年10月13日

令和元年10月台風19号による被害

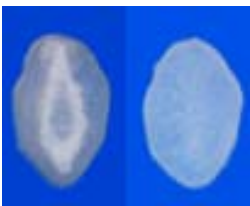


くらし・環境部
(環境局環境衛生科学研究所)

既に起こりつつある気候変動の影響

農産物

米の白濁



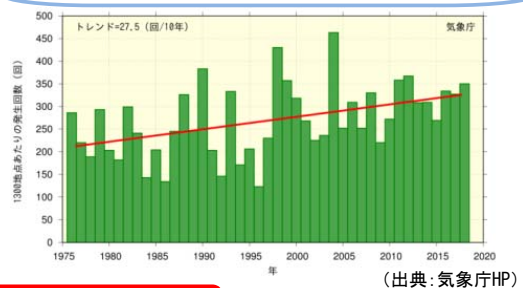
みかんの浮皮症



(写真提供: 農林水産省)

異常気象・災害

短時間強雨の観測回数が増加

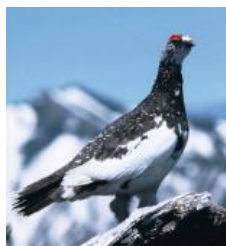


生態系

サンゴの白化現象



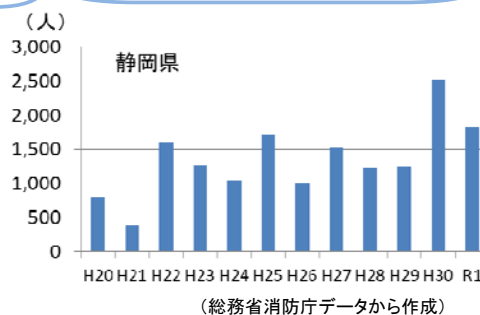
ライチョウの生息域減少



(写真提供: 環境省)

熱中症・感染症

熱中症搬送者数の増加



デング熱を媒介するヒトスジシマカの北上



(写真提供: 国立感染症研究所)

気候変動影響とその対策

「緩和」と「適応」は気候変動対策の両輪



静岡県気候変動適応センター

気候変動適応法の成立（2018.12施行）

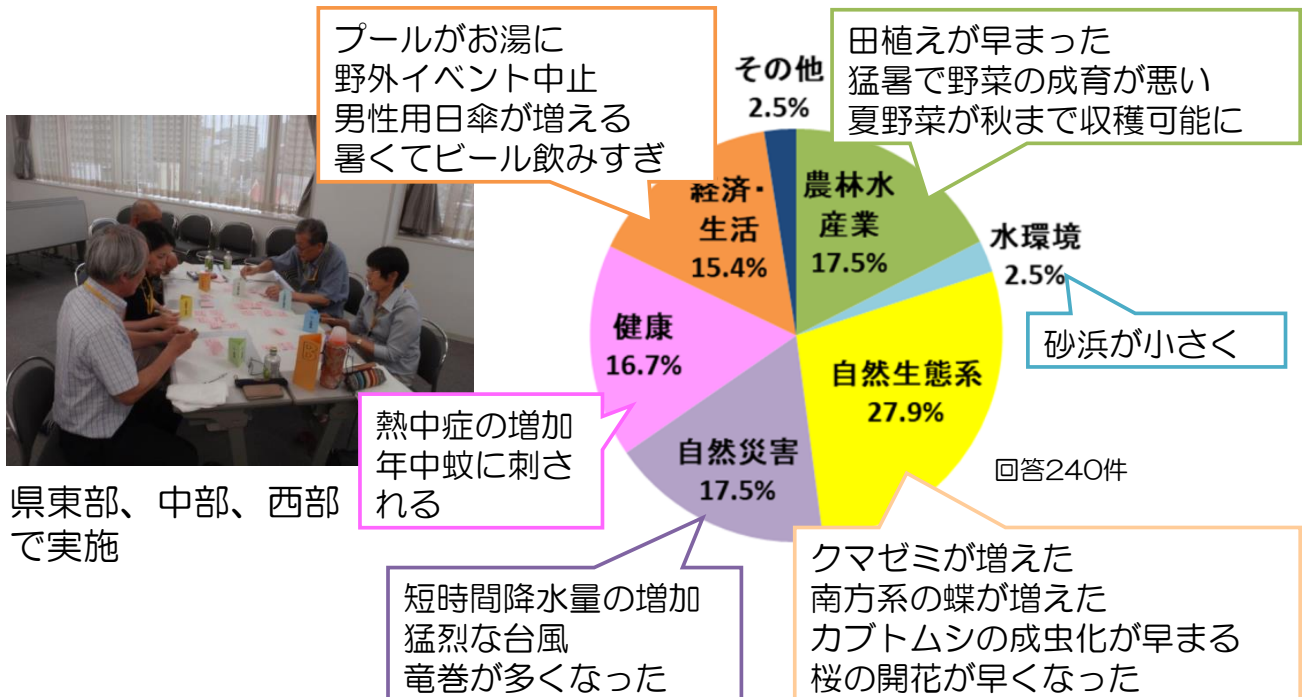
- 国は、各分野の適応を推進する「気候変動適応計画」を策定
 - 適応に関する情報基盤の中核として国立環境研究所を位置づけ
 - 地域での適応の強化
 - 適応の国際展開 など
- 都道府県及び市町村に、地域気候変動適応計画策定の努力義務
→ 「静岡県の気候変動影響と適応取組方針」の策定（2019.3）
- 適応の情報収集・提供等を行う体制を確保
→ 環境衛生科学研究所内に
「静岡県気候変動適応センター」設置（2019.3）
- 国気候変動適応センター（国立環境研究所）や、県内外の研究機関と連携・情報共有を図り、気候変動の影響や適応に関する情報の収集、整理、分析等を行う。
- 環境局環境政策課と共同して、県内市町・事業者などの適応に関する取組事例などの把握に努め、市町・事業者・県民への情報提供を行う。



取組①～③

取組① 地域住民を対象としたワークショップ(1)

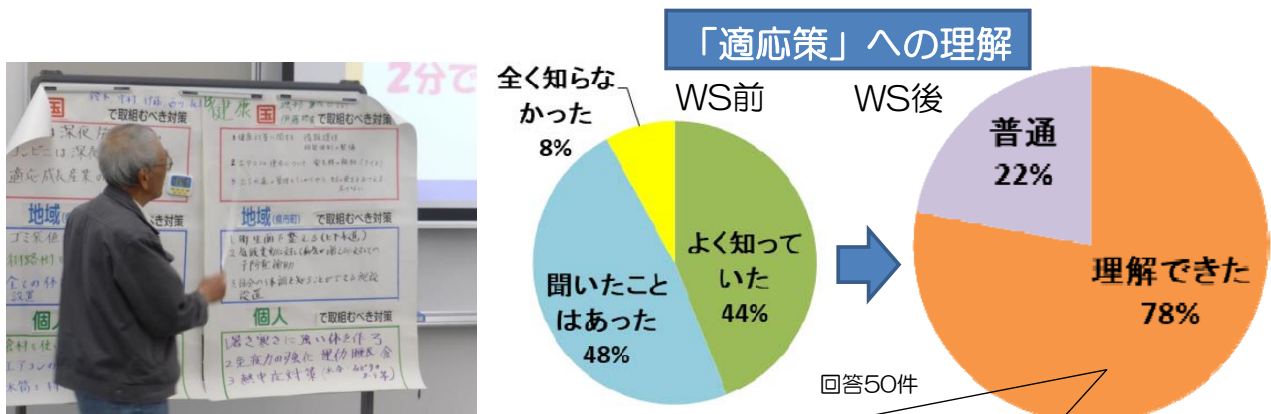
➤ 地域特有の気候変動影響に関する情報を収集



5

取組① 地域住民を対象としたワークショップ(2)

➤ 参加者に適応策を自ら考えてもらい理解を促した



「温暖化になってしまった今、自分や周り（市町など）でできることがたくさんあると分かった」
 「自分で（適応について）考えるようになった」

成果の活用

ワークショップの結果をWEB公開するとともに市民講座等で活用し、適応の考えを普及・啓発

6

取組② 第一次産業従事者からのヒアリング調査

農林畜産分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 高温による生育障害や品質低下 (ミカン：浮皮・貯蔵中の腐敗、コメ：白未熟粒、ワサビ：軟腐病、茶：萌芽期の早まりによる遅霜影響、酪農：搾乳量減少 等) ● 新たな病害虫・発生時期の長期化 ● 短時間豪雨や台風の強大化に伴う作物や栽培施設、農道・林道の被害、酪農の停電リスク ● シカやイノシシ等の獣害
水産分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 水温上昇による海藻類の減少や養殖魚の魚病 ● 沿岸漁業における魚種の変化や魚介類の不漁 (黒潮大蛇行の影響も) ● 河川からの大量の流木やプラゴミの流入
共通	<ul style="list-style-type: none"> ● 従事者の熱中症被害

成果の活用



農林畜産・水産業における地域課題を**国気候変動適応センター**や**農技研**、**畜技研**、**水技研**と共有し、**連携を強化**することで**早期対策**を支援

7

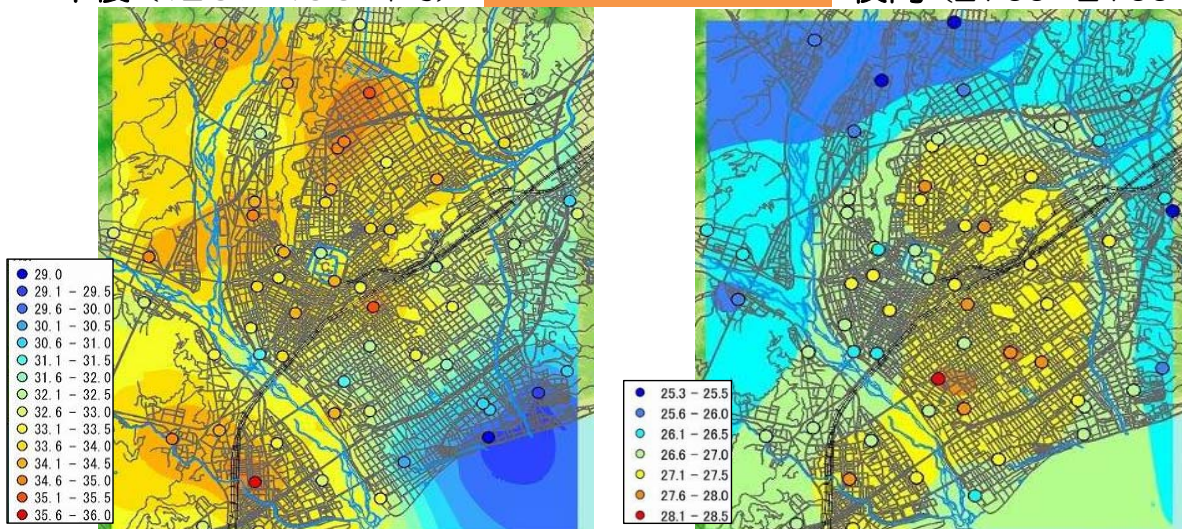
取組③ 市街地における温度計測

- 温暖化影響に加えて**ヒートアイランド現象**が想定される**静岡市街地60カ所**（小中学校等）に**温度計**を設置

午後（12:30～15:30平均）

2019.8.31（晴れ）

夜間（21:00～24:00平均）



成果の活用



気温分布情報の提供により**小中学校**における**熱中症予防対策**や**暑熱対策**の立案に貢献
(次年度は**浜松市街地**において計測を計画)

8